



上海石庫門住宅の保存と改修

石庫門団地『東新文里』の改修提案

石庫門は、上海市街地にもっともよく見られた長屋タイプの住宅の総称だ。石庫門様式の民家は、上海の一大景観であり、この都市の建築文化の重要な構成部分でもある。

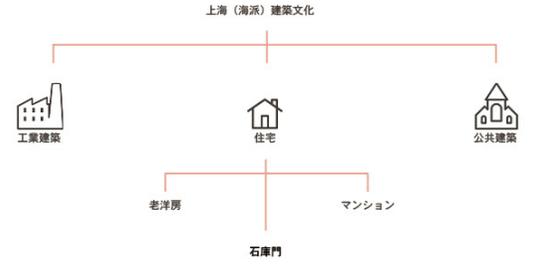


その起源は1850年頃、多くの外国人や上海周辺の豪商や役人たちが戦乱を避けるために、上海の一角に集まって避難所を建設したことに始まる。当時上海の租界には、欧米各国のさまざまな建築様式の建築物が建てられ、西洋建築の文化と中国の伝統文化が融合した「海派建築」の町並み景観が形成された。石庫門もその中のひとつで、当時は、富裕層しか住めない場所だった。戦乱の後、徐々に繁栄し、多くの階層の人が集まり、商店も増加していった。

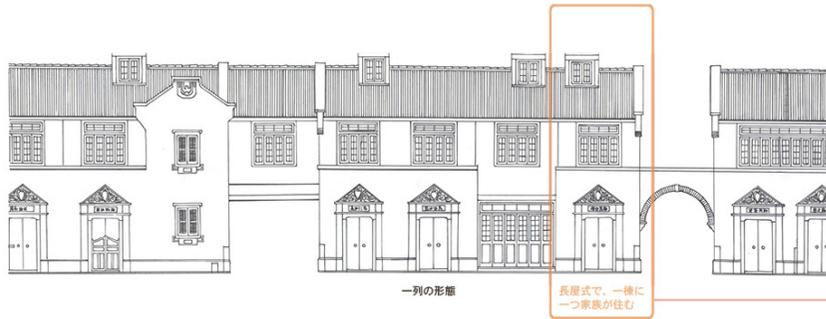


上海中心部に残っている石庫門団地

その起源は1850年頃、多くの外国人や上海周辺の豪商や役人たちが戦乱を避けるために、上海の一角に集まって避難所を建設したことに始まる。当時上海の租界には、欧米各国



石庫門団地の基本構成（縦横の並び方）



一列の形態
長屋式で、一棟に一つ家族が住む



一戸の断面

台所共用、トイレなし

主界の平均幅	支界の平均幅
5.5 m	2.7 m

火事の恐れがある

	(2010年上海) 一人当たりの住む面積		
	上海平均	市内	石庫門建築
面積	10.3	9.3	5.8

個人用空間がほとんどない



多様な門の形態

一戸の断面

中国建国（1949年）以降、上海市政府が当時の所有者から石庫門の所有権を没収あるいは買収し、石庫門は1棟に複数世帯が居住する状態になった。生活空間の減少、衛生施設の欠如など石庫門の生活もだんだん変わってきた。



当時の生活を描いた漫画はこの時期の石庫門建築の利用状態を表現している。このような生活は上海人らしい親密な近隣関係を表している。



石庫門での生活を描写するテレビドラマも1980年代から流行した。



取り壊されている石庫門団地

1990年代から、上海における都市化が進み、国際的な大都市を目指す都心部では、再開発や再整備が急速に行われ、それに伴って多くの新しい建物の建設が進み、高層ビルや分譲集合住宅、道路などの建設による石庫門の取り壊しが発生した。石庫門建築は徐々に路地の奥に隠れるように残る形になった。石庫門建築の保存状況を見ると、外観は立派でも建物内部の老朽化や居住環境の悪化、商業施設化、庭への増築など、問題が発生している。これら石庫門建築に対して今後の保存活用の方を検討することが必要であると思われる。

敷地周囲環境対比



●1910s



●現在（2015）



●未来（2020年ごろ）

近年、大量の取り壊しとともに、市民たちの石庫門に対する保存意識がだんだん高まってきた。実際、上海市内でいくつかの石庫門改築事例が見られる。

新天地
しんでんち



2001年に改築された石庫門団地新天地。改築後はショッピングセンターになり、レストランや映画館も併設されている。

田子坊
てんしほう



1998年からいくつかの芸術ギャラリーが開業して以来、商業地として再生されてきた。今はインテリアショップや飲食店が軒を並べ、上海でも有名な観光地になっている。

保存再生された石庫門のほとんどは商業施設である。

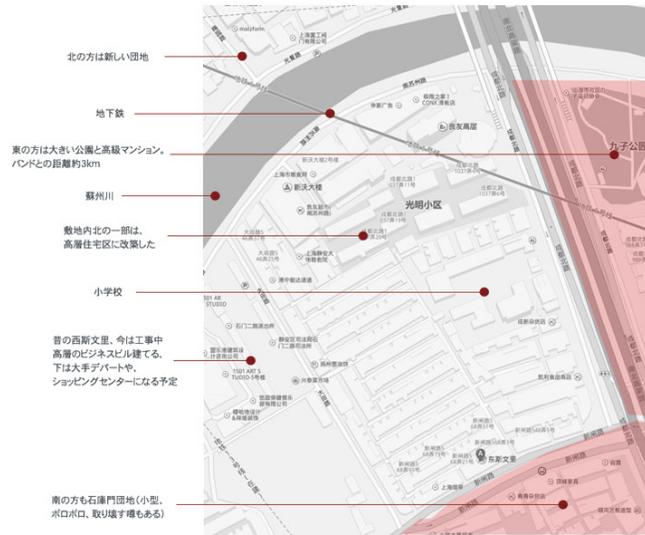
斯文里……上海で残っている一番大きい旧式（1918年に建てられた）石庫門団地

2010年から部分を取り壊す、改築の噂が出ました

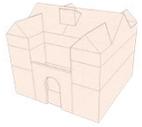
2013年から徴収が始め

2015年徴収が進んで、居民が引っ越し始めた、団地周りの店はほとんど閉めた。

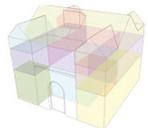
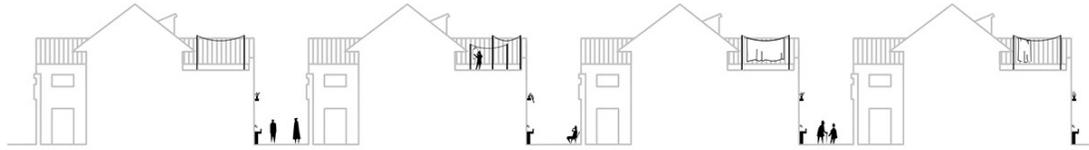
2015年10月、団地を保存しない、全部取り壊すという決定を発表された



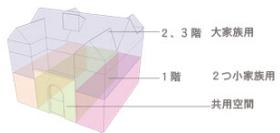
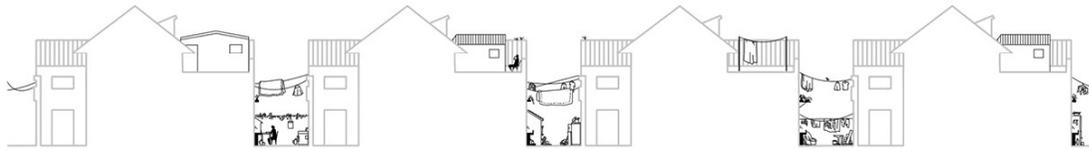
住宅部分



● 1910s 一世帯



● 現在 (2015) 6世帯以上



● 予想 三世帯



一棟につき一世代が利用する(大家族)



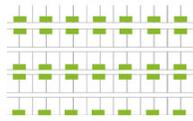
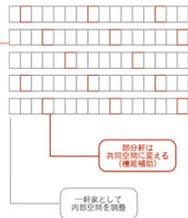
一棟につき6世代以上が利用する(2-3人家族)



予想：一棟につき3世代以が利用する



団地全体



一軒家の庭として利用すると同時に、
外の人も利用できる共同空間を作る。



団地の入口が車を通れるようになっている



団地に小さな公園も作り、駐車空間も確保する



緑の通り

